

初期餌料の培養技術開発研究

多和田真周・杉山昭博・金城盛徳

本研究の詳細は昭和61年度特定研究開発促進事業（沖水試資料No97、昭和62年3月）において報告したのでここでは目的と要約について記す。

1. 目的

珊瑚礁海域に生息する南方系の重要対象魚類（ハタ類、フェフキダイ類、アイゴ類）は温帯性魚類に比べて全般的に卵径が小型でふ化仔魚が小さい傾向にある。

従来はこれら魚種の飼育初期の餌料にはシオミズツボムシを中心に給餌し、種苗生産技術の吟味、検討を実施してきたが安定生産までには至っていない。

現在の餌料系列の見直し、及び小型餌料生物の探索と培養方法について検討し、南方系初期餌料を開発することは南方系魚介類の種苗生産技術確立に寄与するものと思われる。

南方系重要魚種の飼育初期における仔魚の大量減耗防止策を図るため、適正な小型生物餌料の探索とその培養方法の研究開発を行なうことを目的とする。

2. 要 的

- ① 通称海産クロレラ、テトラセルミスおよびキートセロスの凍結保存試験を実施し、凍結後、6ヶ月間の保存株の増殖能力について調査したところ、通称海産クロレラでは -70°C 保存株に増殖性がみられた。また、テトラセルミスとキートセロスについて -70°C で凍害防御剤を用いて保存した株に増殖性が認められた。
- ② ユビナガチビムシの餌料種類別と塩分濃度別による培養試験を4例実施した。塩分濃度別では低塩分区ほど良く増殖し、餌料種類別では通称海産クロレラ+パン酵母区が良好な結果を示した。しかし、S型ワムシ混入による密度の不安定化、餌料投与量の適正化について今後の検討事項として残された。